

## スマートウォッチで健康管理

### ◆健康機能を強化したApple Watchの新モデル

腕時計型のウェアラブル端末・スマートウォッチは、時計としての機能以外に音声認識による入力機能やメール確認、音楽再生、アプリ操作などができる。これまではスマホのサポート端末などとして、デジタルに強い人の関心を集めていたが、最近は健康管理のツールとしても注目されている。

現在、スマートウォッチ市場で6割のトップシェアを占めるアップルは、2018年9月に第4世代のスマートウォッチ「Apple Watch Series4」を発売した。新モデルは健康を守る機能を強化し、内蔵の光学式センサが心拍数をチェックし、基準値を上回ったりした場合はユーザーに通知する。さらに、新しい加速度センサとジャイロ스코ープを搭載し、ユーザーが転倒した場合、手首の動きなどからこれを検知する。1分間反応がない場合、緊急通報サービスに自動的に電話が発信され、登録された緊急連絡先にも位置情報と共にメッセージが送信される。

### ◆予測では、今後2,3年でスマートウォッチがウェアラブル端末市場の主流に

スマートウォッチ市場の参入メーカーにも変化が表れている。活動量計をメインに手掛けていたガーミンやフィットビットの他、エプソンなどの時計メーカーやファーウェイなどのスマホメーカーも参入し、価格も1万円以下から5万円以上と幅広い。健康機能の拡充以外に、ファッション性の重視も最近のトレンドだ。

商品例（国籍）	健康機能でみた特徴
EPSON Wristable GPS SF-850PS（日本）	GPS計測や心拍トレーニング機能などランナーのための計測が充実、消費カロリーや睡眠状態も計測できる
Garmin vivoactive3 Music（米国）	心拍数計測、ストレス度合い、専用のアプリを使えば同じスポーツをする人とつながり、情報を共有できる
HUAWEI FIT（中国）	心拍数計測やランニングコーチングシステムに加えて、最大酸素摂取量の計測も。日々の健康管理と過剰トレーニングを防止する

IT専門調査会社IDC Japanは、18年10月ウェアラブルデバイスの22年までの世界と国内出荷台数予測を発表し、18年は前年比6.2%増の1億2,256万台の出荷を見込み、19年から22年にかけてスマートウォッチがポピュラーなものになると見ている。腕時計型は、誰にでも抵抗感なく身につけられるので健康不安を抱えるシニアにも、今後、支持が広がる可能性が高い。 【秋元真理子】